

ブータンのドラえもん

農学研究科修士1回生 谷 悠一郎

1. はじめに

筆者、2年前の当会誌「フィーバー藤子不二雄 FC」にて「台湾のドラえもん」という記事を書いた。これは日本国外でのドラえもんについて紹介したものである。今回はその第二弾として、ブータンでのドラえもんについて記す。

2年前の話になるが、大学の関係でブータンに訪れる機会を得た。その訪問時、ホテルでテレビを見るとドラえもんのアニメがやっていた。これは素直に驚いた。ということで、今回はブータンで筆者が見たドラえもんについて短いながらもまとめてみる。

2. ブータンとは

ブータンは南アジアに位置する王国である(図1)。インドと中国にはさまれており、日本では2009年に国王が来日したということや、世界の中でも最貧国のひとつではあるが「世界一幸せな国」ということで近年注目されている国でもある。

人口はおよそ70万人、面積は九州と同じくらい。主産業は農業であり、基本的に経済や労働はインドに依存している。公用語はゾンカ語(Dzongkha, ཇོང་ཁ་)と英語であり、このほかテレビの影響(後述)でヒンディー語、ネパール語が一部で通じる。



図1 ブータンの位置 南にはインド、北には中国チベット自治州がある

3. ブータンのドラえもん

ブータンではドラえもんのコミックが売られていない。これはブータンが経済的に依存し、多くのものを輸入しているインドでドラえもんの漫画が売られていないことが理由として挙げられる¹。このため、ブータンでドラえもんを見るにはテレビアニメを見るしかない。

ブータンではテレビでの国営放送(Bhutan Broadcasting Service, འབྲུག་གླུང་བསྐྱེད་ལམ་འཛིན།)が1999年に開始された。その後、ケーブルテレビが各家庭に導入される。2004年からはインドで衛星放送を行う事業者 TATA SKY²が設立され、この衛星放送を導入する家庭が増える。この TATA SKY という衛星放送の中での DISNEY CHANNEL にてドラえもんのテレビアニメを見ることができる。

DISNEY CHANNEL でのドラえもんのアニメはヒンディー語で放送される。これは、もともとインドでのドラえもんのアニメが Hungama TV³という子供向けの放送局⁴で訳されたものを用いているためである。

このように、衛星放送を通じてブータンの人々はヒンディー語のドラえもんのテレビアニメを見ることができる。都市部を除いて娯楽もあまりないブータンでは衛星放送の普及は結構高い。そのため、子供たちにとってドラえもんは案外とありふれたものになっている。

4. 筆者が見たドラえもん～アニメ編

筆者がドラえもんを見たのはブータンのホテルで滞在しているときである。最初は何気なくチャンネルを回していると映画「ドラえもん のび太と夢幻三剣士」をやっているのを発見したのがきっかけである。ヒンディー語で話すドラえもんはある意味新鮮であった。

その数日後、別のホテルにて朝の7時半からドラえもんが放送されていることを知ったので早速見てみた。このときに放送されていたものは「オオカミ一家を救え」(大山版ドラえもん、1985年4月5日放送・原作はコミック2巻)である。テロップなどは修正されず、アフレコだけがヒンディー語でなされているのが特徴である。ちなみに、ドラえもんの声は水田わさび以上に甲高く、全体的に女の子のような印象を受ける⁵。

¹ ちなみにブータンではタイからも輸入を行っているが、タイで販売されているドラえもんのコミックはタイ語である。そのため、輸入しても意味がないことになる。

² DTH, Digital TV, DTH India | Tata Sky DTH || <http://www.tatasky.com/wps/portal>

³ Hungama TV || <http://www.hungamatv.com/>

⁴ 余談ながらクレヨンしんちゃんなども訳されていたりする。

⁵ 伝わらないのは百も承知である。

何枚か写真を撮ってみたので、それを以下に掲載する。



タイトル
日本語のまま
である



「オオカミは
いる」とのび
太がジャイア
ン・スネ夫に
熱弁する場面



オオカミを探
しに山に向か
うのび太

このように、いふなれば大山ドラえもんそのままのものが放映されている。

5. 筆者が見たドラえもん～子供編

筆者はブータンで村に3日ほど滞在して、村の子供たちと仲良くなったのだが、そのときに一人の男の子がドラえもんのシャツを着ていた⁶。また、別の7歳の女の子は、筆者が日本人であると知ると、落書き帳にドラえもんを書いてくれた。子供の中ではポピュラーな存在なのかもしれないと感じたのである。

⁶ 日本語でドラえもんを書いてあったのでおそらくは古着で購入したものなのだろうが、彼はその後ドラえもんシャツでうつった写真を送ってくれた。それが写真1である。



写真1 ブータンの村で仲良くなった姉弟、右の弟はドラえもんシャツを着ている

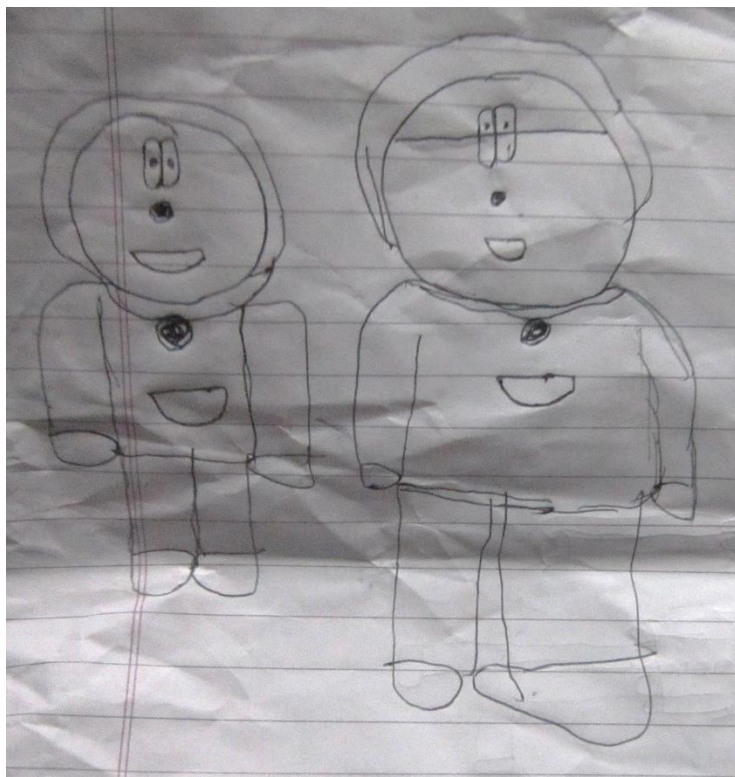


写真2 7歳の女の子が書いてくれたドラえもん

6. まとめ

以上、まとまりのない記事になってしまったが、本稿ではブータンにおけるドラえもんについてまとめてみた。途上国でドラえもんがどのように扱われているのかということはあまり知られていない。実際に、日本のアニメがどのように扱われているのかということについて知っていただけたらうれしく思う。

